

演題区分: 06) 医薬品適正使用

演題名: シックデイに対する保険薬局での患者認識調査

要旨本文:

【目的】糖尿病患者のシックデイにおける糖尿病治療薬の使用については、使用している薬や病状によって中止した方がよいものもあり、個別の対応が必要となる。しかしながら、糖尿病患者のシックデイに関する認知度は、糖尿病教育入院などで指導を受けた患者であっても一般的に低いと言われている。今回、当薬局に来局される糖尿病治療薬使用患者へのシックデイの指導方法を検討するため、患者認識調査を実施した。

【方法】

- 1) 近隣2店舗で来局される糖尿病治療薬使用中の患者 (n = 65) を対象に、「シックデイという言葉を知っているか」「発熱や下痢、嘔吐、また食事ができないときに薬をどのように使用しているか」などアンケートを実施した。
- 2) 低血糖リスクの高い薬を使用している群 (SU 剤・インスリンなど) を H 群とし、リスクの低い薬を使用している群 (α -GI・DPP-4 阻害剤などメイン) を L 群として解析を行った。

【結果】

シックデイを知らないと答えたのは全体の97%であった。食事ができないときへの対応は、調節・中止する 14%、通常通り使用する 53%、病院に尋ねる 5%、分からない 28%であった。

また、低血糖リスクに応じた解析では、薬剤の低血糖リスクに関わらず食事が摂れなくても通常通りに服用する患者が、H 群(37名)では59%、L 群(28名)では46%であった。【考察】

当薬局の来局患者においても、シックデイの認知度が低いことが分かった。また、薬剤の低血糖リスクに関わらず、食事が摂れなくても通常通りに服用する患者が半数にのぼり、シックデイ、低血糖への保険薬局での指導の重要性を認識した。現在、応需先の医師と共同でシックデイ理解向上のための指導箋を作成し、対応を始めている。